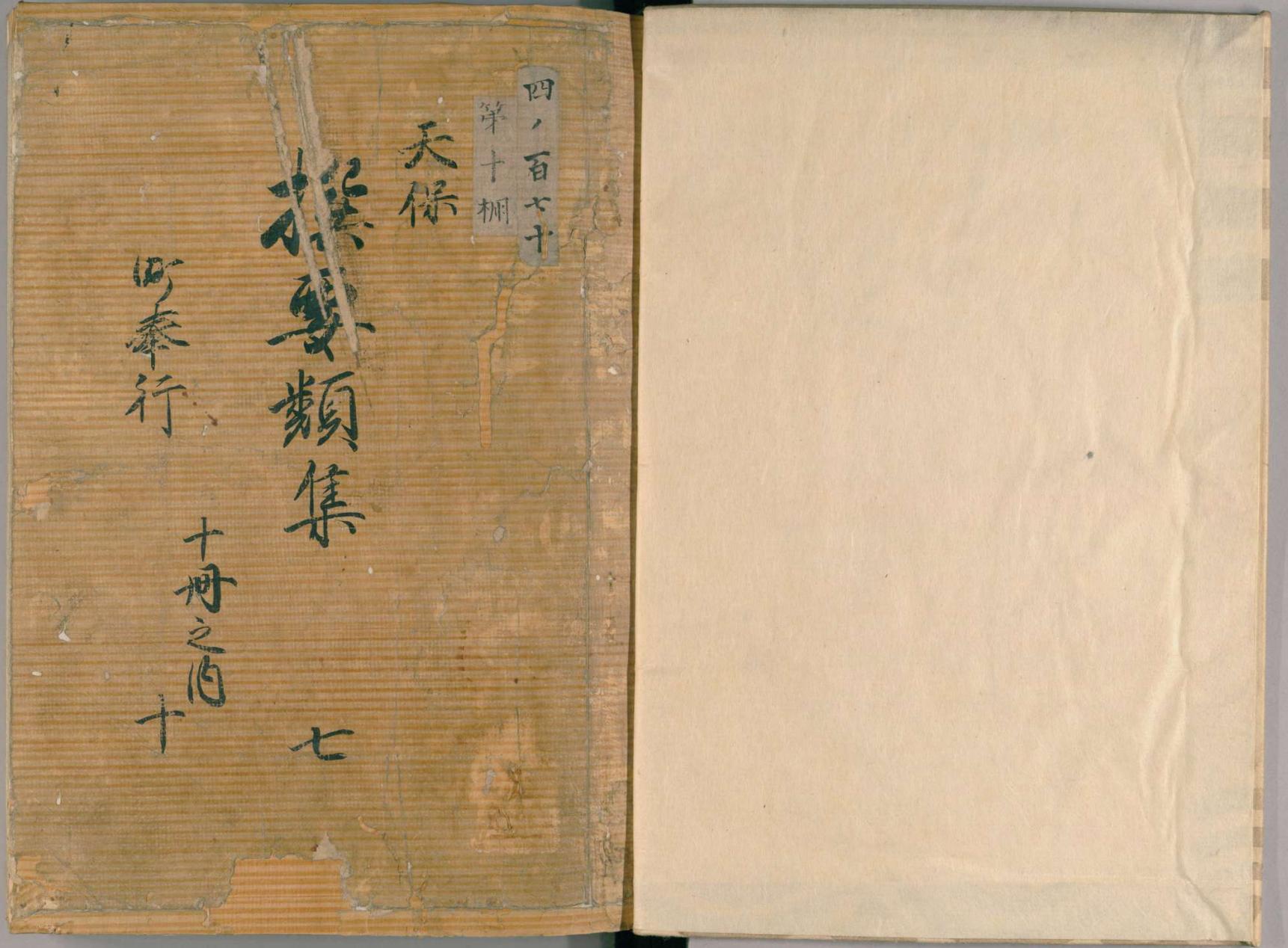




13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57



13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

国立国会図書館 タイトル『天保撰要類集』 請求記号 815-1

ガラス使用



町東引水

稿

一  
笠原浦八事をかくの手竹清波海  
件の笠原浦八事東昌松井吉文  
於而清田自害後年相手の恩義復  
生事

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

一  
或

三宅太佑の來渡り會ひ人多有  
川波於立而熟否。并毛手自害渡  
伊舟組手刀圓心接便半一牛車

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

天保七年七月内  
於石川屋書院而數次  
於松平周防守家來圖  
平生事蹟之書

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

右之松平屋方ち御来屋因秋安  
松井國書後而御松平屋洞山病以無  
之外行將下波浪海川一御舟也  
出之御相楚庄公有女ノ御田西  
漢國妻ノルノ自殺ノ事ノ御舟  
波浪上無誠死發是亦一御波川

辛酉  
七月

右一通書御波浪起下波母也一後之  
年辛酉股筋加多人物書大半ノ御蓋  
和田市書日松平屋方公内志有  
南朝辛酉村瑞千市吉古南  
魚出止方吉法仰波沙勿向方平青  
仁移之御毛並之合中波入

四句方也之年辛酉南里權人御物書

森平子二郎中渡有り  
一右舟止方西役所並補足丸  
古西書物港山中伸之秀志上ル

津屋吉良作渡中上書舟

田舎

後安三郎清

松原今古二年海野吉良古青石下魚出  
廿四日付作渡以二月今朝八時出立  
松平辰治ち高來國山社井松井  
圖書役取松平清之翁八重子  
竹弓水舟海以一升二月廿四日  
豈有之以如此多入於日圓浪因  
委自教遂以舟渡北上其誠也發

天保一十五年正月廿二日  
書付後

正月廿二日

正月廿二日

後夜三時

天保一十五年正月廿二日  
書付後

天保一十五年正月廿二日  
書付後

天保一十五年正月廿二日  
書付後

萬葉以身及手方一尺也一通可得  
一通中節是獨立出而一尚用而中半  
渢因更口之半進後之役人一  
通草使一望日陽而葉肉為薄可  
中以看取之不乘力後而當中甘以定也  
葉肉而一以之相即古用而中自知  
一任

一國因私事外乞之死獲是分付家門  
豆泣并醫脚未口上書口書口一中以之  
死獲及斗一以家來之而一以之  
死獲之追古脚法而一以追後行母  
家一而一中連昇又之始詣  
第一而一中連升又之始詣  
豆泣并醫脚未口上書口書

一中波川

一國の秋葉村より書面を書く  
波は西山の有りて國の邊に  
流れる古風中王川橋一往ル右國の  
事一而一以て左國の事一  
夏調節來相手處の西山橋一而一  
中波川一往ル

一出之日波川一ノ高吹五瀬文書下也  
國之日朝出之一法作母川小遠國一ノ高吹  
又三日支度一五波川一高成下也  
有古生川計波地云一國之日是今江一  
波丈之口一源一高角初所穿方之  
國之日出之一往川海出水門面木白日積  
日移延門往川海も一有古生川計也

存

一通中私其候之而反取威公用是分  
一節之聲彌云用是因已其候之而半  
堅胸微股汗乞毛是分一節之彌之  
乞用不仕乞乞得古堂以

右一通吉向以

七月廿二日

右四百物

後文三席多高

右四九

後因奏後高一候候之中付文集門  
進之右高止而一候後以

此經是分之一而後補遺之一之

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

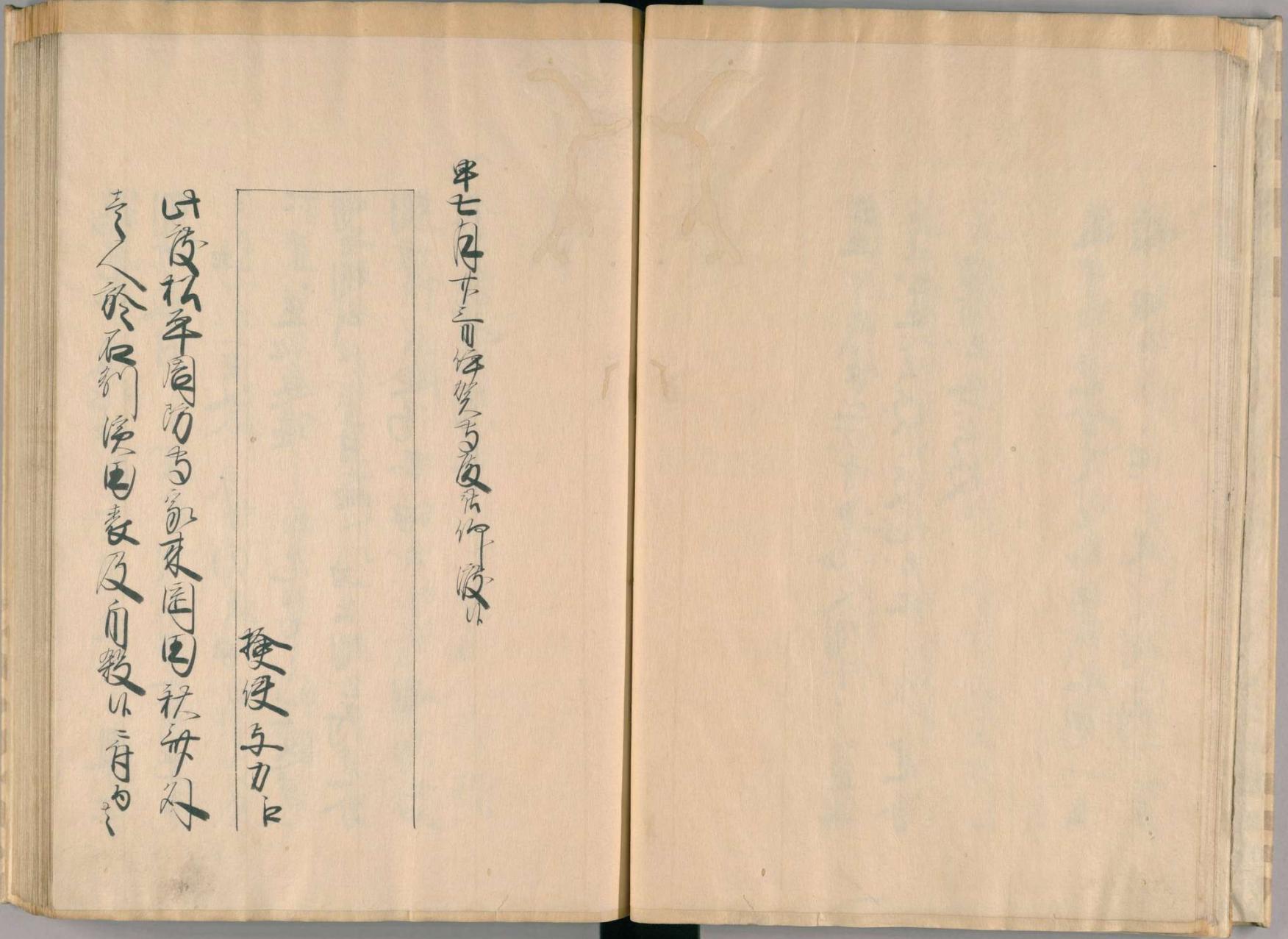
後序中甘家口直義醫師本口書  
及一卷及抄法一卷中後

書底本一以之書一卷持後一卷中以  
右因本口一卷一以之并行於此の  
及前書及一卷中一卷持

通中無題分立聖德昭成乞用一卷  
亦以日本古文一通一法初乞得

出之一卷及日本古文初下山實  
出之一卷及日本古文初下山實

一卷出之一卷



13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

高是分波地タカシハシタチに以爲之ヒサシテ一通是分  
相浦及府シマウラヒキ一書中空イフツウ以爲之ヒサシテ書只書シマウラヒキ  
一書高一及吟味タカシヒキミの事モノ一書  
一中建物遠瞻タカシヒキミ後尾アフタ以爲之ヒサシテ往返アフタ也  
時日相持シマウラヒキ以爲之ヒサシテ有アリ之モノ法初ハツ乞得是分  
相浦以爲之ヒサシテ該場所カツジヨウ出ル一後周防アフタ也  
家東カタヒタ一書相浦シマウラ

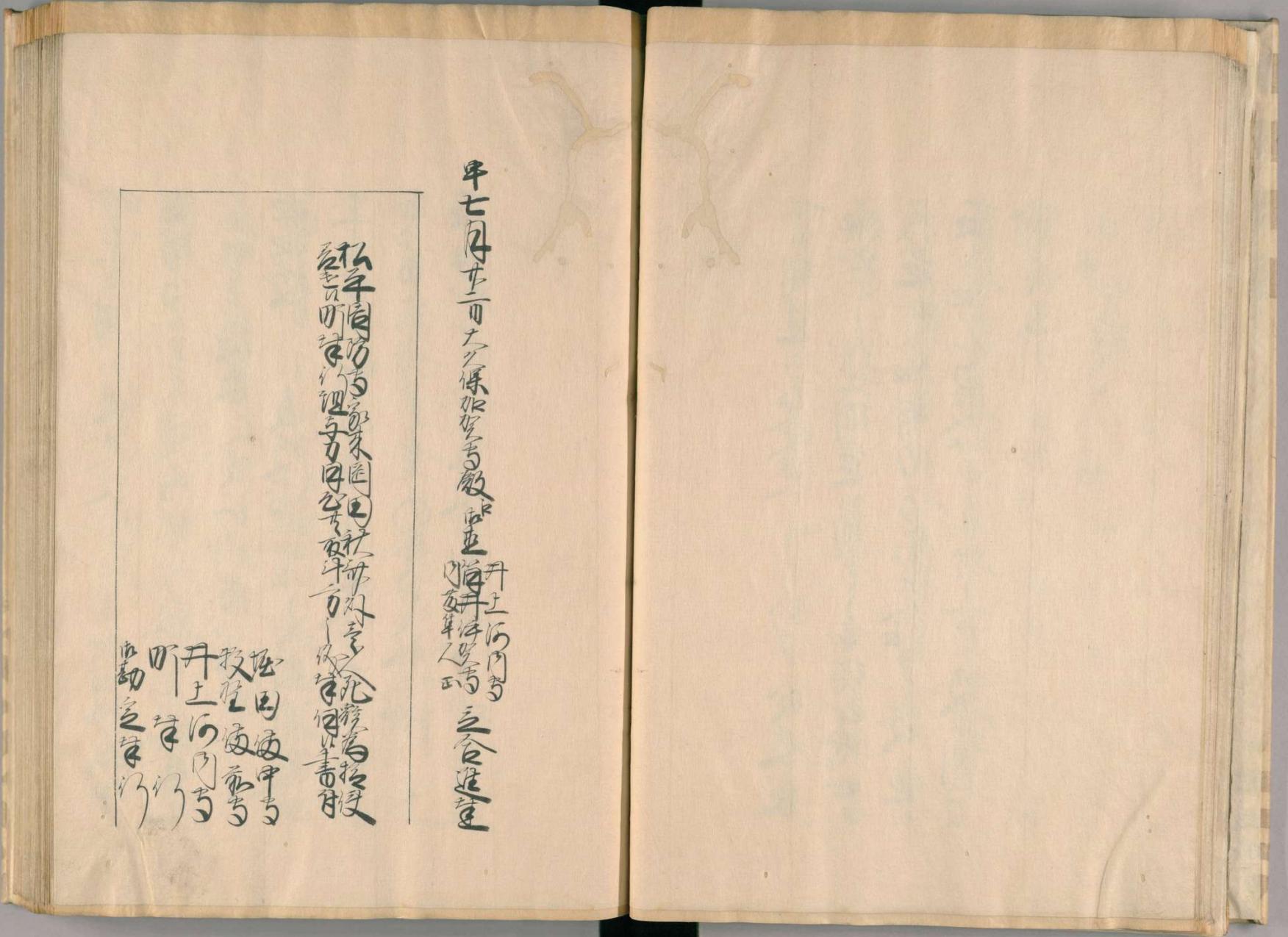
一於古國地タカシハシタチ上アベ以爲之ヒサシテ後初  
庭川而四海シマウラヒキも右アベ以爲之ヒサシテ中波  
出ル遠アフタ後空イフツウ以爲之ヒサシテ内ナカニ  
时日ハツジ未アリ不アリ一前未アリ以爲之ヒサシテ相交  
未アリの事自殺ハシマリ一前未アリ以爲之ヒサシテ相交  
りの事又調アフタ一前未アリ以爲之ヒサシテ相交アフタ也モ一書

相浦シマウラ

一秋初降風西半神  
萬車之音清微有二例  
八神風氣之出二初成之日  
自殺之次牙口上書及一是又以出一  
做一秋初降之內百方事之多一  
角有二母一中甘德一次牙初吹  
亦之有二母之是又以出一後至

一秋初降之乞接便一之不於彼表  
以生之以一初降之圓之有初公母之天  
微之生以相周而有初東中波並以  
右之加空音數中上中波之圓一法  
得之之

甲子  
七月



13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

時大一四四一通接便ノ後書附便松年  
圓防ちの家來國西秋井外事之變毛  
一ノ件事有事人支向あす。出一風  
船銀安一ノ後彼地ニカム。又自殺以  
上之行も秋井降國西八千席。并松丹  
國書氣國一ノ支至双所ニ奉  
右之出事一ノ取及以圓防ち家來事追

下之一而一而一ノま難斗右之接便  
一ノ之の於場所一ト通相見及處之上  
中波の4月志文ノ一ノ事之勿漏  
第ニ有ノ一物。如指判。凌圓。交行往  
通中。名義半以下。往返九年余。之  
相對。一中乞財。旨。門裡。手力。日。乞  
來。ル。ナ。六。月。此。如。圓。地。出。之。一。積。ノ

春九月丁酉立十月壬戌  
中西支右近府一王亦書一之  
中未中走以福多之行至近府  
十二月上元二月初歲在己卯之彼是  
往後一則宜安又之承康至一解  
吟咏之言一而反一中以回捷足  
一之之也一王也行一而而安

之のい近ニシテ妻火立ト一候於  
場所一中諸以廻之而一其後二月  
出奇無力私也一國防も御來相望  
近右一通和書題手力也ト中合  
を一以故一仕方年好以復一中一也

以止

七月廿二日

右書物は公算の事に於ける松井の筆法の如きを示す

松平信方の筆跡

之書案

松原村山高人筆之手稿  
波瀬川一郎　吉田正社　松井

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

圖書の出一ノ井上山門  
御算以加右事人を右御用事  
かみへ及自害以日加多ち殿古事因  
有一酒立力事人用乞人此君為  
是分之走以同彼地高云是分之  
右門令のちに左書口書万  
依止古事地下出一ノ井接役

まつり立二及算口書之附被根  
中城一法西川  
七

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

国立国会図書館 タイトル『天保撰要類集』 請求記号 815-1

ガラス使用

去月之四月訪ち家來匪  
松丹國書林正義游海之市

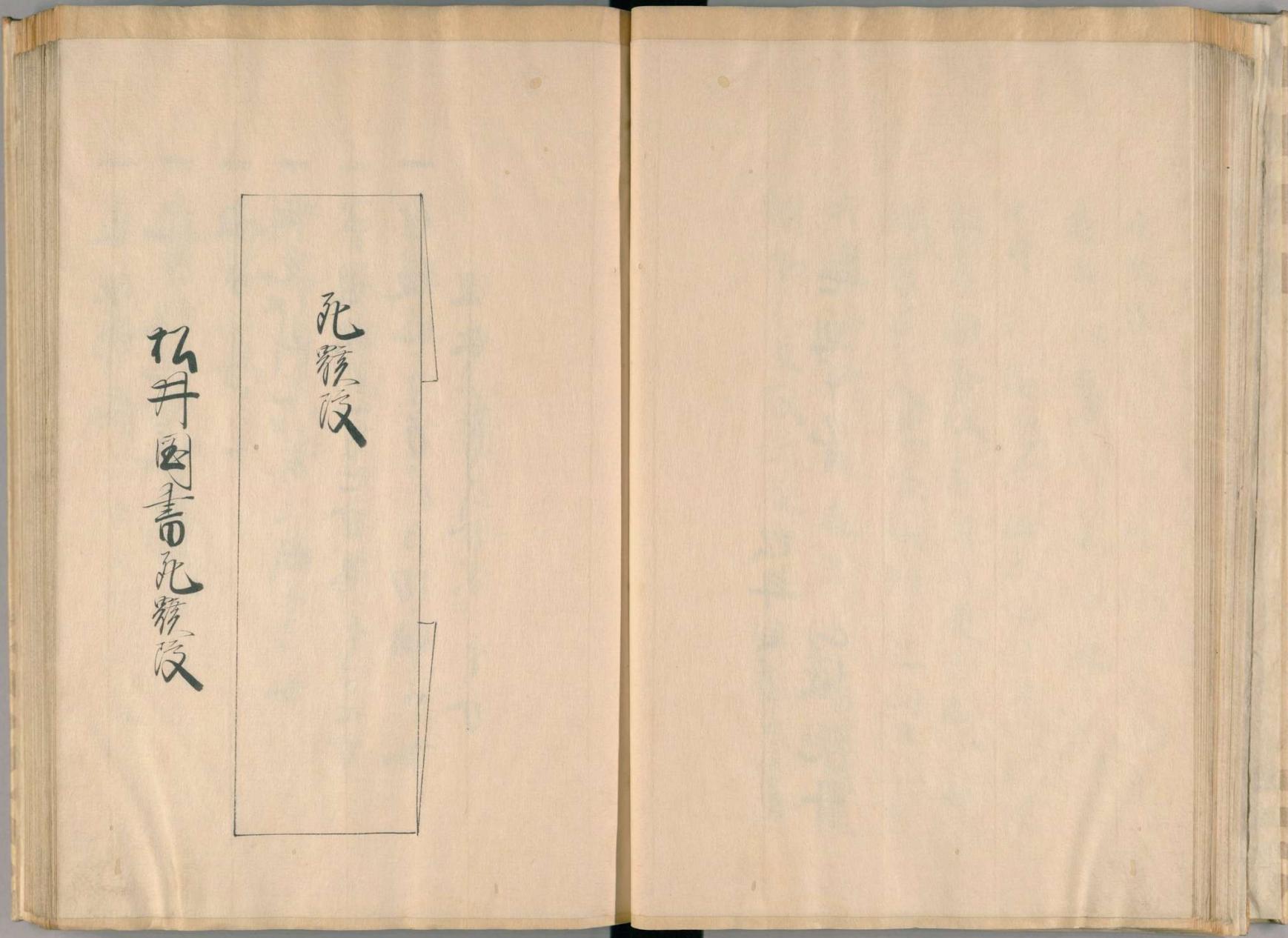
松平周防ち家來  
山根源平

猶清而八節固四十節反煩牛  
三經清而四經亦清身一中上而  
古道存平遠涼風爽中老以微之  
孤柳之身の門支木也日本ノ涼風  
之志丈ノ玉府ノ後中日月十七日  
生之ノ風ノ積西壁外故有ノニ也  
秋井水ノ日夜甲子申署因之汲

十六日夜ノ腰痛弊一乘法出之難而  
成之曰、之安ノ膏押ノ商ノ日  
羽田商人立之ノ種丈ノ用意往  
佐助去日本八日夜日本ノ秋井水汲  
自殺而采圖書風ノ十六日竟是又  
自殺初采ノ日本平遠為是分役ノ立  
後毛利政以如自殺而遠之古壁ノ而

済因表及人之云  
現日名越御  
院之御通中門  
支多殿之門  
時平ノ御右脚御通  
御御御御御御御御  
圖書府而役書舟御通御御御  
圖書室又源氏松井起山口上書  
式通鑑御文書出御御御御御  
相添不取役御役御御中主御上

七  
月  
十九  
日  
松  
年  
周  
防  
ち  
の  
家  
来  
山  
根  
吧  
年



13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

一 裹 痘 滅 因

一 化 痘 滅 比 可 銀 东 口

一 支 小 ぶ こ

一 呼 气 滅 毒 丸 本 七 深 三 五 分

一 脚 陷 丸 一 方 二 三 切 深 三 五 分

四 長 三 五 七 分 深 三 五 分  
四 長 三 五 分 深 三 五 分

毛 髮

一 白 痘 毛 子

一 布 糜 痘 毛 三 五 分

一 下 布 白 木 痘

一 色 痘 二 支

一 梗 本 七 分 二 分 五 毛 植 物

四 滴 不 加 分 中 古 律 一 色 大 一 丈

13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40  
41  
42  
43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50  
51  
52  
53  
54  
55  
56  
57

諸切角二枚づゝ有り

右一通古社の以テ

天保七年六月五日 清水三郎左衛門

一毛清左衛門

才四郎左衛門

手山七郎左衛門

手山七郎左衛門

口上元

松井社

日本圖書文庫

口上元

日本圖書文庫

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

天保撰要類集

有二症出府法仰卧仍云大十七  
出之高及於臂每以脉而復後痛  
熱亦深法生之雖初成以膏養生往  
來以收方而未解日出之高及於  
肩背以微加今竟行之未外之原  
中裏健安一方而密委委以波

天保撰要類集  
自發一症初覺時當以集腋之  
處更以微調乞紙後切脉有一仍曰  
反抱一證者半途致西師以手為丸是  
惟知反卒急絕醫師中之療治方  
之一而中皆以止後慢生有之方  
不汗而解之以甘草入以行之

卷之三

天保撰要類集

六月十九日

松井松山下

ガラス使用

口上書

天保撰要類集

口上一元

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

国立国会図書館 タイトル『天保撰要類集』 請求記号 815-1

松井圖書後後云古六四不腹痛  
熟矣法全之中署一乘味之初見  
服之而瘳用藥成返古役方一微今  
朝哉一矣一早述底誠古以渴之  
自殺一生一將是更以渴之復早  
以渴絕一療治一其固一  
由往以病一吹牙壳一通

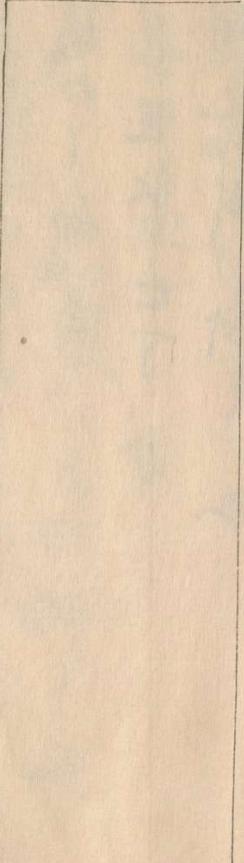
一渴一厭一厭一而  
一渴一厭一而一而

右一通一候一而一而一遠一古一往一上

六月廿九日

浪天鬼渡  
平文秀而

天保撰要類集



13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

一 唇側漏注

一 止瘡毛句

四滴丸收之

一 腹下有赤色小切瘀之石

四長寸七寸六分

一 嘴元口部之瘀之石

四長寸四寸六分深寸七分

一 嘴うちかへたりから切瘀之石

四長寸六寸

一 鼻口血出

乞類

一 鼻漏成三ツ大打之石及

四漏高之石

一 白面惟子

一 雨は白鳴

一下草 白 鳴

一 布おひんと圓東鳴

一 滅失小段後安トニ安

一 脱毛毛絆脱毛拔毛轉毛有

一 月安ナ九寸六分

圓田安ニリ布一沿院ち不初分

カニウ有

一 捕淺矢三牛矢刺毛

一 月貴金毛有ノ詠

一 捕取角鷹

圓鼻金

一 雨赤潤銀金魚股金色有ノナラ

圓治是才正秀矢有ノナラ

一 韶令入掌板筆

一 下備糸足絆龜折

一 大口十角鷹出

一 三色光金色符

一 洗洗衣服

一切相モセナフのモ

但モ授ムシニシセ

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

天保撰要類集

書付

卷之六

上一章

天保撰要類集

舟出舟出作舟家去ルセナセナ  
為後事ノ事ナリ一加木の日夜中  
中署一氣未る生之班御成作參  
はかくは方舟御取押出之一為後  
事後事御取押出之一為後事  
夜未以達安入御方一方向也  
又一舟家門一之の並ニ無誠

思文以御社御役自殺一船舟御營  
平遠家來一之の御之御誠信ニ思文  
御御誠信御役切歎有一役の久抱  
一役の平遠醫師御之御而思文  
寔平遠醫師御中も療治方一  
中嘗て以御役御出之有一者介不  
汗石一之御家入御つも公商

一  
天保七年正月廿九日  
午前十一時半

天保七年正月廿九日  
午前十一時半

宣  
書

入  
京  
事  
後  
日  
刻  
印

天保七年正月廿九日  
午前十一時半

返へは方正堂山根博士の復讐時  
半面皮不思議の魔鏡中東郎  
御用生ひ御用皮復讐自殺一解  
是更相傳の対立平脉以及之も  
絶癡用一の御りも方正堂の切口  
一枚之公下毛一通毛一ト辺ノ様下  
九十六分往來御圖鑑一切口括體

龜城九寸三指深さすす余  
右一通初集初邊二五堂山根

天保七年  
六月廿日

京  
永田耕深下  
喜秋  
平

國史稿  
井松年  
圖書記載不灰翁  
諸遠一並り而後更表及人

草  
山根惟良  
年

井松年  
圖書記載不灰翁

ガラス使用

中城日石此號止後物行之斗一中計

某日行之

松平月防吉家東  
山根飛平

書面是也社節外人此號處也町  
某日酒子力母公文為復使至日本東

得之者之西平文宗被堵下中計

七日

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

又用清賣弓去ル一ノ年四月未済支下向方  
換便弓之無或生箭一ノ般合是合瓦一通  
文

一金拾五

廿下金

一四  
總用金

一金拾五

四七千四分六拾五支四分

一金三支三分

四四門四支三分

痛代

一古捷方

四或接一捷七千四分  
七石

一信

五金八支三分

是之淨膚上  
是積更反生善

乳食

金粉六支一分

四古捷方七門七石

六接七支三分七石

四口支一分

一古下金二支

一治用一四金支一分免

一高代之不全或分瓦

一二人扶持一信

四物四枚之信下以

平  
七月廿二日辰生人

遠西雙使司  
安東城守氣局安方一役中主事書手

支平書

一  
延喜使  
一  
若城守

三  
信  
八  
信

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

年十二挾

式挾

支挾

一塊入金切  
一丁裏

一朵裏

支挾

右へは皮筋にて繋ぎて左側へ用  
書面一通相應する様一通生半包

ガラス使用

四乙年六月初年中御承認を蒙  
所取引節度入用平文一通相應する  
年次付用紙中上

江主

七月

京  
江主

松浦氏十郎  
天保大判

天保大判

波多野

私以爲不無用處  
萬一中止  
則失之  
不可復得

物入手一而一毛無計生用金  
渡方一内行平振引一五吸  
私金或振支下汲支下用之更  
備行印行後算行引日役道  
一歸歸府行之並返同一往行

七月廿二日

後夏三郎房

門譜文集

馬走人是人源口元百里四席  
走上十六出一毛之被水下為方用

御家之子以酒与力後友三郎高田直  
用公武、宣井洋次秀之酒与力后田口一郎  
用酒用公武、萬城少翁正口人  
之市高口而御用公武、宣井正口人  
之市高口而御用公武、宣井正口人

一而後一の也

天保七年半  
七月廿九日下

右  
高田

上包毛濃御相掛、平浪四一門二つ折

門用  
之酒

門用酒  
後友三郎高田直  
之市高口

上包毛濃御相掛、平浪四一門二つ折  
之市高口  
之市高口  
之市高口  
之市高口

一傳馬邊文左衛門、浦口分之一筋書、前山間略

門譯文

一傳馬

四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七

一傳馬

八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七

是古事記傳解

右之卷而後漢書已述上天下萬國  
宋書七言文之卷而後漢書而馬  
而傳解之卷而後漢書而門譯文  
軍事傳而前漢書而傳解中漢書上

牛

而門譯文

七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七

後漢書而傳解

後漢書而傳解

中了道板橋高木

回良中

高木源吉

休泊

23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

廿七日

日 日 日 日 油 金

高 松 丹 道 乘 木  
千 桶 楠 丹 長 木  
橋 游 丹 丹 木 木  
門 木 木 木 木 木

日 日 日 日 日 日

上段車下取至岩村  
坂 田 田 田 田 田  
松 京 山 乃 乃 乃

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

初伏是之而後休  
初分乘以閒而書之休  
初夏是積之至支

日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日

定休大奇毫駭匈  
被 久  
思澤山川井丹

加物門大中毒壁  
久聞門魏底  
洞源深金門魏底

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

右圖文而一隻斗毛

比方塗牛  
卷頭末記  
次

日 日 日 日 日 日

大西小瀬乃布山

四

庫富魚川山川清

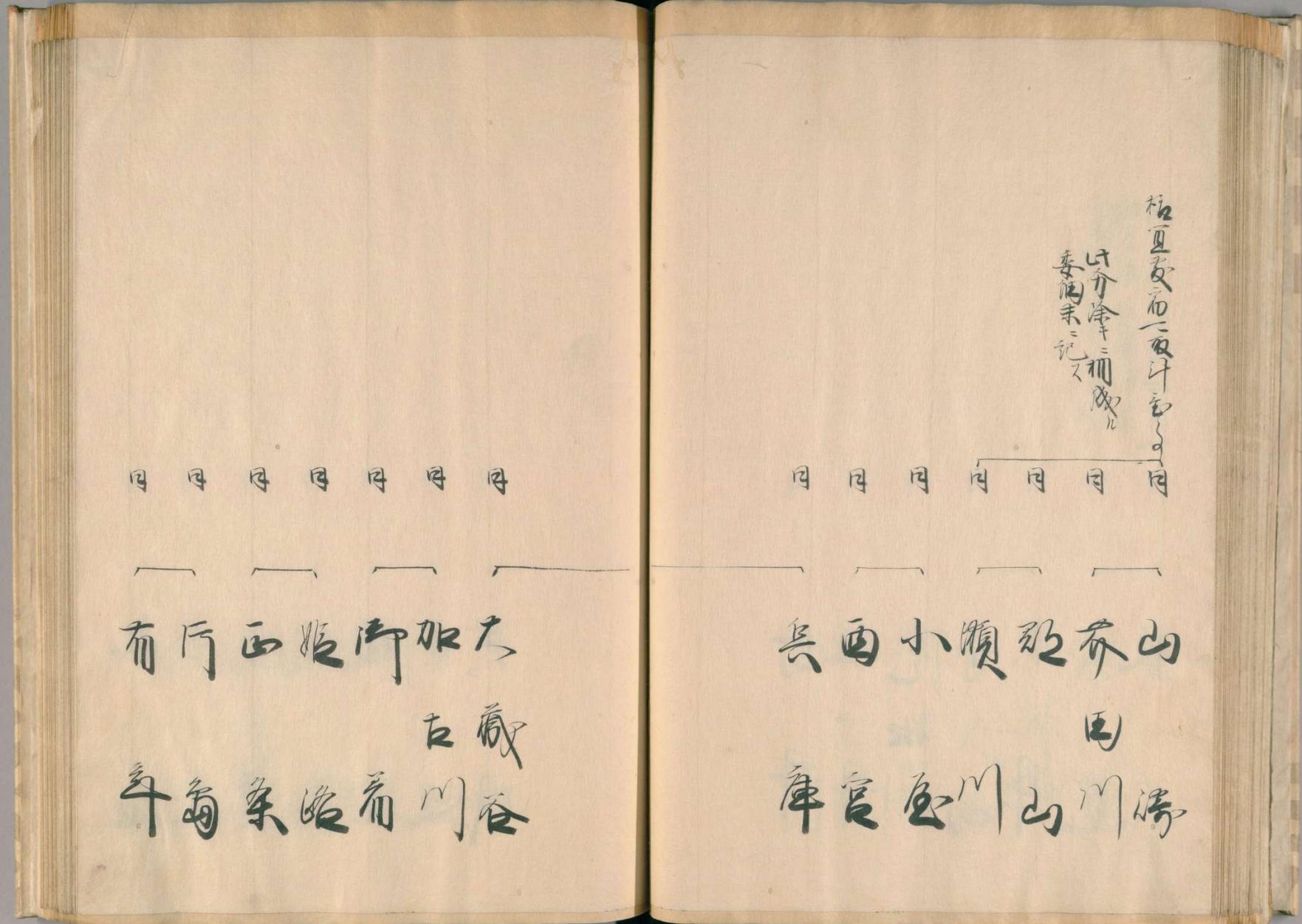
日 日 日 日 日 日

—— —— —— ——

有行西坂井加太

右藏

平角東坂高川谷



13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日

七高神今尾三浪

行支友用枝川多

堂

ツ

市販邊洋通東國

石上山倉邊開

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

右一通竟徧乞出之得休恩  
東船來一坂上法丈不直  
西官水道一山海通之除キニ

四 四 四

次今市

四市本

四 四 四 四 四 四

中和可廣海西車

四

山地級酒市集々

初成之事

遠西古用玉之一枚中上書付

高石

後文三部書付

松平國芳吉家來國印紙  
主入所御用印表を以て自殺死

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

佐二付後北風紙有此號也分付一  
中上而云廿二日往於考數去後渡  
彼國下後立石連今朝六日付申山  
通事出之付廿四日西向中上以

七月廿七日

後文部司清

右出便書是之後乞不持起一以種中並

半七月廿七日朝六日付之同樂也一通  
一着意  
一草履及  
一持持  
一寧以

因着意一通後門之付申天照御馬也  
寧以之股門之付申天照御馬也

右一分

一毛筆之字有智一文假用之文

大坂東流巴下  
ノレミテシテ留馬

事

一具足挂持

四足一枝高而走刀之由鹿不速而行

高足

三足

一寫範單

四足四脚乞長持之圖

一束掛持

四足四脚

一合掌寫範持

四足四脚

一寫

立

御有古傳与寛七才元誠以稿古傳與之

中走

一通中筋の如く傳馬の如く

（此ノ如く傳馬の如く）

四

御用の記川弓漫搬行

弓弓の小巴京搬行

司漫  
三漫

御用の記川弓漫搬行

弓弓の小巴京搬行

司漫  
三漫

役附箭搬行  
弓弓漫搬行  
寫總役下目以役附小弓漫  
司漫

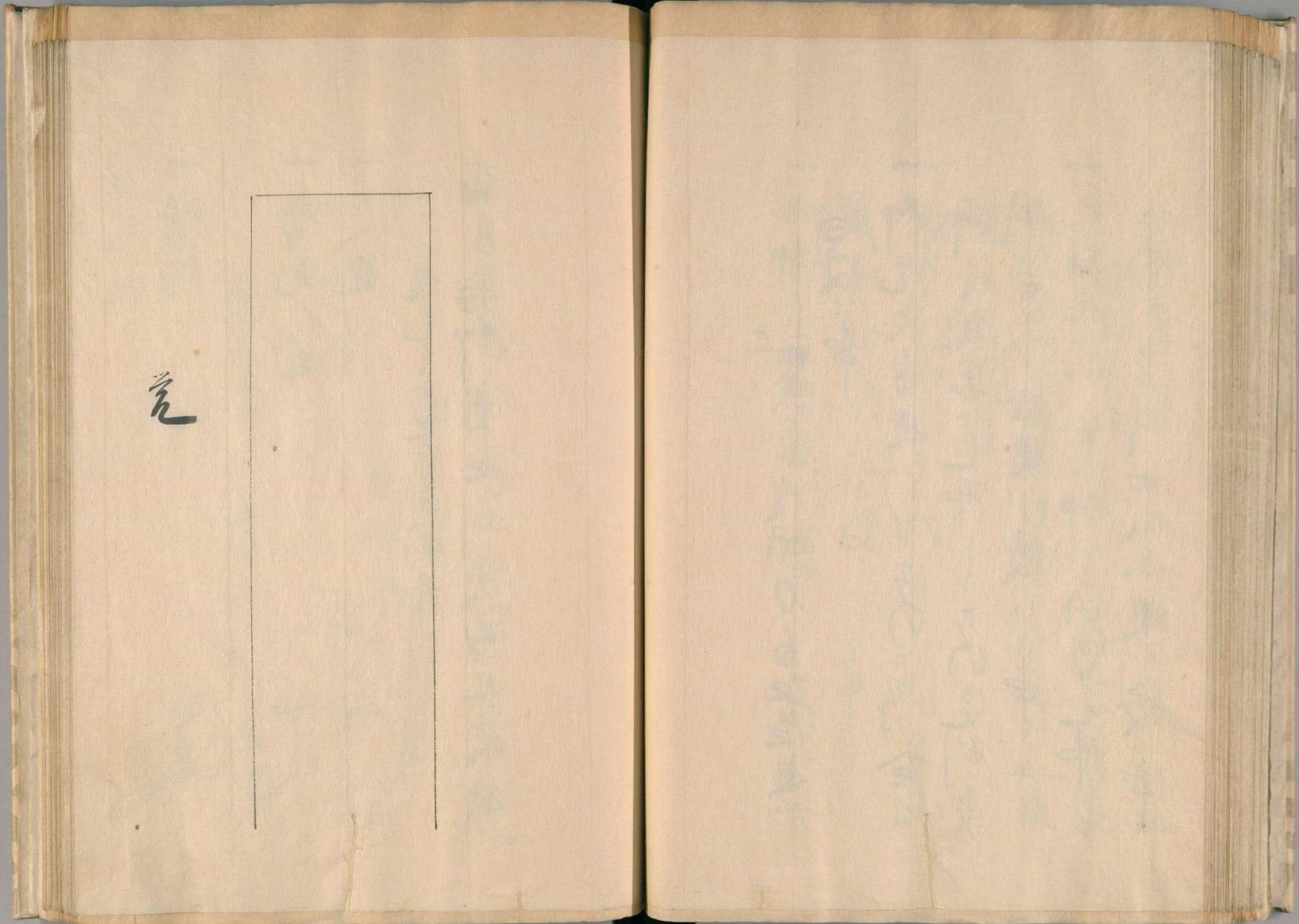
取合接支漫持手

一長持一弓之是走走的レ一弓持  
直汽口付一遠圓子用一而長持弓  
兵械山事及於底至深意之

内儀曰其上本丸盡長壽殿也之  
一物長持の無誠川に及ばず事有  
者此是合意也而ゆきが命は上長  
持も無誠川事

一旅中先拂一之の布一劍交掛  
身家は近ト相接一は事  
一門采下と持通ひ度一は事の生會

依頼ニ裏一後方も相接通ひ  
高處事  
一門譲文も通ひ度一の是劍交  
而ニ相接ニ至拂一の是劍交  
掛先も相接通ひ度一は事  
一大役免行合前事一  
之の制變拂一取る通ひ度一は事



13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

国立国会図書館 タイトル『天保撰要類集』 請求記号 815-1

ガラス使用

津說文

一傳馬

四色一古之實民之傳一

天

一傳馬

人

右之為子用而得次也此無誠

人

右之為子用而得次也此無誠

广所生

柳矢之音酒与力

後效部云清

七

中山居  
石制板橋高  
源田屋

金車

卷第一

序

後文三部清

後文三部清

後文三部清

中止後文三部清  
後文三部清  
後文三部清

表文書用箋是江戸の御内分  
通の止高ニモ相承りて支一ノ  
一布古生牛耳事の起者支付人役  
軍之日卯年馬役支法度古取  
内至而表文書中毛法度以貯石紙は  
被是古丁寧一加保革序以起者支  
付人役支ノ音有臺事内草箋又

表文書用箋是江戸の御内分  
通の止高ニモ相承りて支一ノ  
一布古生牛耳事の起者支付人役  
軍之日卯年馬役支法度古取  
内至而表文書中毛法度以貯石紙は  
被是古丁寧一加保革序以起者支  
付人役支ノ音有臺事内草箋又

カニハ等々ノ事ノ後汚一中叶末  
立ノ不中止高ノ移田乞一方六  
人役五連底城中以右舟止高并  
通行立支レ一ノ移住後初和中以  
且西越中王以シ之如何古社以得  
必古東京ノ同支御之室西の中上  
止版高ノ五被青海加意の西被加止

由往以次上

七日未四

有ニ龜井銀光寺度御來ト一御食事  
落成下立城以舟あめ舟も有一通波  
ト及大津ノ市並ト高櫻原村等持院

キテス

八月廿四

一 洋画委の筆便當用口書の口書  
又御相手迄大口出之一積又極光  
徳ある乞之御用又七時迄アマ  
急吉用紙之用の事一筆手札の前  
號文被以御洋書の後更書る  
一 船洋画下の事御用紙以御一又後

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

佐助門支山の馬ノ右へ彼地一宿  
書直之又書物貯布ノ四室之有  
トモト書口書写事事古今宋唐之國  
一桶底而有二以之西峰宋古口

一多是夏御而次平後三事上而  
書口以次夜半時ノ用海も  
和書一通、子善波一以後一後

通中止出泊ノハ前豫中止一積  
洋支波ノ日自本九月應門山縣於  
本地取之再復九月廿七書物之至  
大通手の生入

井伊方の御子力丸石川源正

右肩西切宣馬内安久  
加添書井伊方の御子力丸石川源正  
書付支井伊方の御子力丸石川源正

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58

西用有<sup>レ</sup>一去日大七日也<sup>レ</sup>此  
右所用<sup>レ</sup>是<sup>ク</sup>多便中<sup>レ</sup>毛人門用<sup>レ</sup>  
明朝傳馬<sup>レ</sup>即<sup>レ</sup>渡<sup>ク</sup>吉宗年<sup>レ</sup>金  
用<sup>レ</sup>之<sup>ク</sup>及<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>毛人門<sup>レ</sup>而<sup>レ</sup>有<sup>レ</sup>次<sup>ク</sup>之<sup>ク</sup>  
以<sup>ク</sup>後<sup>ク</sup>送<sup>ク</sup>右<sup>ク</sup>而<sup>ク</sup>一<sup>レ</sup>の<sup>ク</sup>連<sup>ク</sup>中<sup>ク</sup>  
利<sup>ク</sup>而<sup>ク</sup>以<sup>ク</sup>和<sup>ク</sup>一<sup>レ</sup>往<sup>ク</sup>且<sup>ク</sup>書<sup>ク</sup>平<sup>ク</sup>相<sup>ク</sup>  
國<sup>ク</sup>不<sup>ク</sup>有<sup>ク</sup>而<sup>ク</sup>其<sup>ク</sup>版<sup>ク</sup>之<sup>ク</sup>也<sup>ク</sup>

半<sup>ク</sup>年<sup>ク</sup>算<sup>ク</sup>人<sup>ク</sup>下<sup>ク</sup>

東海道西門<sup>ク</sup>而<sup>ク</sup>  
行<sup>ク</sup>定<sup>ク</sup>右<sup>ク</sup>  
四<sup>ク</sup>右<sup>ク</sup>年<sup>ク</sup>回<sup>ク</sup>而<sup>ク</sup>  
既<sup>ク</sup>立<sup>ク</sup>計<sup>ク</sup>

以切中實體上之形而於流連  
是分之古文平方一後其序之書

右正而妙極  
後文部清極  
左竹因藝文  
庄龜

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

列傳一通古道中以松木中付以圓  
扇吹氣急促急高持之進中以且又  
於波地西走分相拂口上書口書寫  
之外此出之の事古費汗披古服及  
之地古急使之法古中誠以松木中  
起急使急急之方一風圓扇急度  
家來古送古急之法盛一形作之存

軍械中一役之古萬地拂手一匹りて  
支道五隻斗而一船舟以付以波可  
得西急如五隻之以下上

八月十四日

速 庄 錦 午

竹 田 祐 之 史 午

國 仁 宗 伸 午

吉 田 有 申 舟

吉 田 有 申 舟

後卷

後卷

ガラス使用

件號書面

書面

漢文表記一上此體即之勿相識  
一件口上書只書一文字無上序一後

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

国立国会図書館 タイトル『天保撰要類集』 請求記号 815-1

筆以爲書且書曰或之是合一而  
成書付未有一以之有一写其平  
便之以一法中誠以有之遠峻一以  
微則當方歸云遠之日移也相對  
依緣二月吟未之譜一高かへま  
平以度之一以之以圓反調相應等  
右之書平之一法中誠以事

但中文平使飛脚立之方一以之  
流因表圓方急來火中讀之  
相對一中為極以

今般爲當初有御用西服  
因与力取之去月十七日立年半  
于

印

打上本紙甲酉一月二日行

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

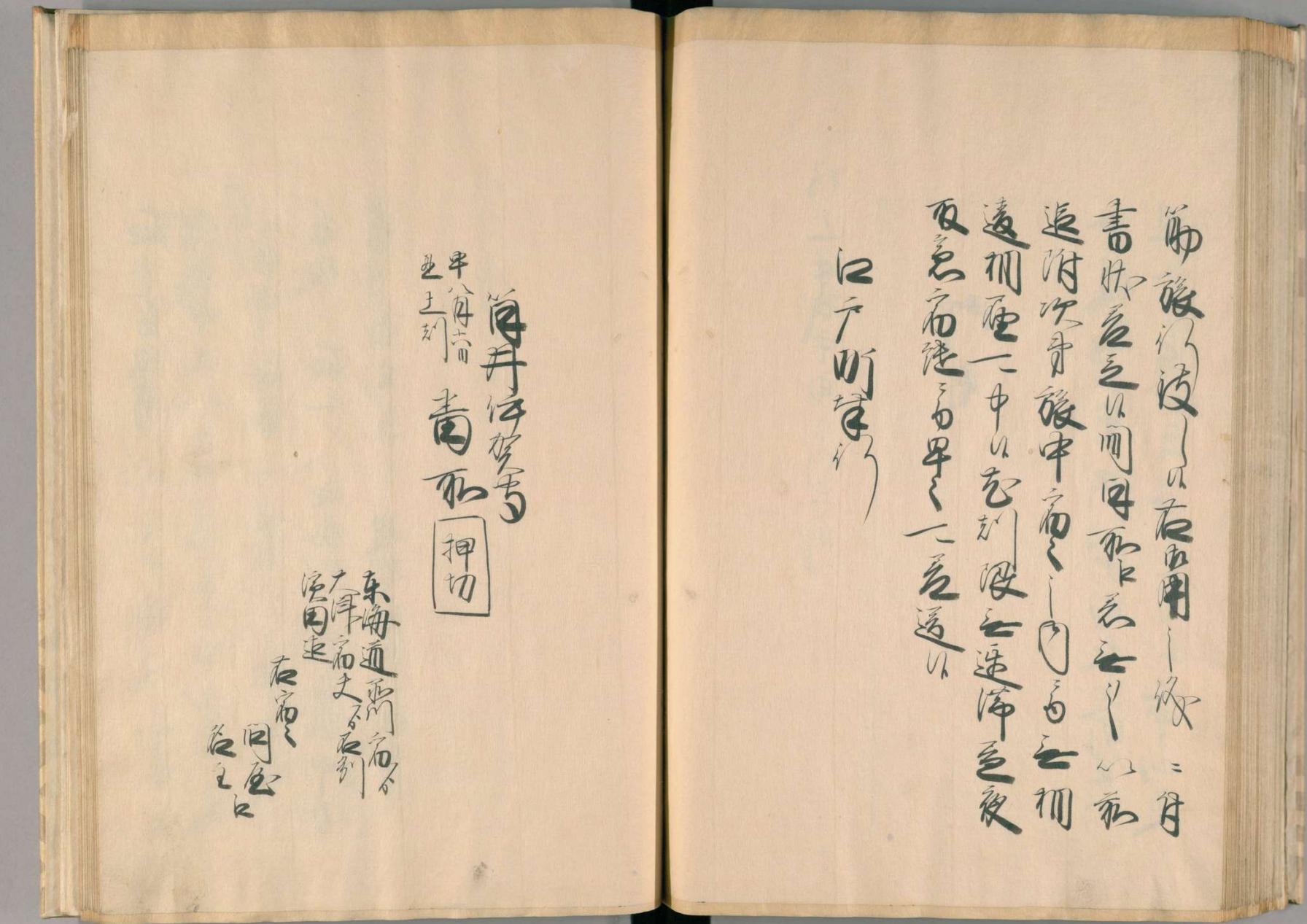
御殿門交一ノ右西用一  
書狀後之以圓印而下之以方  
通附次母娘中高一  
送相應一中以毛前後  
及毛高達毛卑一毛送川

右  
天明門

甲子年  
正月  
青松  
押切

東海道西高  
廣津高太不刻

右  
天明門



13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

右書の及用ノ狀其收納入上書  
南書中已到之市流堂十市先事原  
小之而後亦有空紙色之素掛  
立板右之ノ右書列古書不押切  
書舟書向原一通初添來之事

折上天保庚申四月二日

口下所見之理方力  
後又三市清  
右四百助

一  
印用狀前  
文

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

天保五年正月二日井伊勝平の書面にて所事

年正月  
及ノ申

回

右

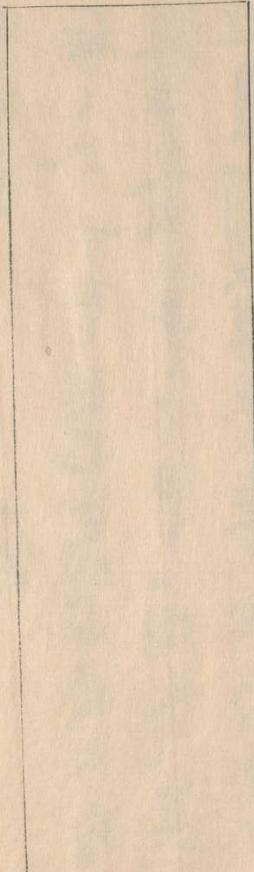
藝能平地扇子  
東海道西門扇子

後文  
後文  
後文

年正月  
夜之子付

右之正月而御用更衣出役事  
佐助右衛門一ノ段東門町御用事  
前丹波守吉忠内書和木良忠之助之口  
右之正月連御宿務門公付御用事  
之助一ノ段正月送以被一ノ段御用事  
年正月  
後文  
後文  
後文

卷上 中古清書一書



13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58

国立国会図書館 タイトル『天保撰要類集』 請求記号 815-1

ガラス使用

一  
函  
一  
函

一

一  
函  
一  
函

一

右之今本九月復九月付西使法  
臣等文及平次高一上初送於某  
付商法門使事最之罰五萬兩用本  
左之物西使以得其右用箭之指

列一函書付公付之運洋船半  
相而以船中通船一往高是文法門  
付商法門使事最之罰五萬兩用本

付商法門使事最之罰五萬兩用本

應付山縣船半

人

大

付信金

平  
年  
九  
月  
九  
日

後文一部清皮  
右用百兩皮

見方一通  
書上口清写  
後文一部清皮  
右用百兩皮

口清写  
右用百兩皮

見方一通  
書上口清写  
後文一部清皮  
右用百兩皮

見方一通  
書上口清写  
後文一部清皮  
右用百兩皮

見方一通  
書上口清写  
後文一部清皮  
右用百兩皮

右用百兩皮

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

國書  
支那語文書  
通五方及高麗語書  
及人文字書及一  
高麗以得其道中  
五方及高麗語書  
通五方初見一事

國書  
支那語文書  
通五方及高麗語書  
及人文字書及一  
高麗以得其道中  
五方及高麗語書  
通五方初見一事

洋是委託書下付事由記入  
於済因委託分相博一件一のを  
口上書口書口写之外更に其の返す  
被木色は使ふ一中止前乞起脚立方  
一便之回防事當本中後更于  
一便之便西口付口是又  
取締使外便之私事後商自十四日

復済因委託事由記入  
被木色程一便一便口事へ因ひ有  
形則返出一便分付後此監督相博  
主上門番一のを多め取る様  
音の分及猶持返事中止一時  
十七日迄口上書口返済相博中止  
乞去是分書之外支清書出來

兼以將軍の御用御返済用表

承至以ゆる余に延てこよも相承御右

書の如れを通申仰りくも相承

御府一上古事中止りと將も度至

廿十八日寅酉未正之一積又極充宿

急出銀印取めし御脚立の方づも

不便利一候も古事小間寄生之弊

不無利一候も古事小間寄生之弊

本地取も相傳而次年便ち古事云出  
中以乞及斗方、及後書を通是一分  
書を通口書を書を写す冉相添  
至主中以回乞渡へはて所改へ  
西行出一法下り乞通申及乞相送以後  
看度事も而一古事活も古事  
右等一候も古事小間寄生之弊

天下に書形不善余屏房一卷  
海内之古文類如古文書之堂

八月十九日

張子正書日海右先生初成于本十七  
庚辰夏調相津山中土正始立  
中正初變以日本六月三日正書海右  
先生仕以續之本七月二日正書一卷

廿六日吉日丙寅海右先生正啟高  
堂授中士正而正委於上一法  
下以獎勵試場而博因乞無化發  
入金以備濟困而之外周防予家  
東不妄生其書舟或通其色又相  
互正中以次上

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

一通分書

一通斗方、口傳書

一通上書、口傳書

一通  
支通

一通  
支通

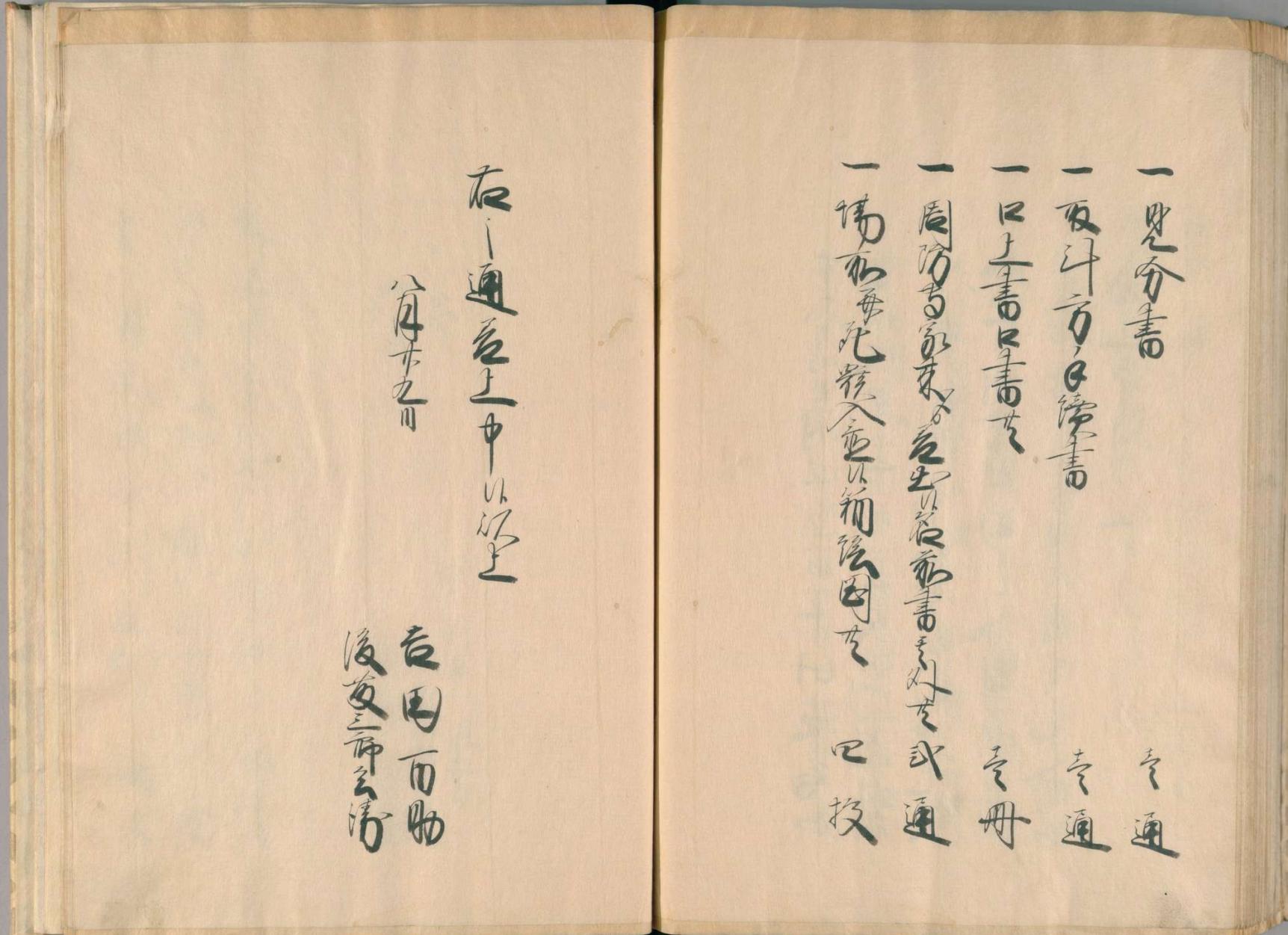
一通防ちる事、口傳書、外文書、或通  
一通防ちる事、口傳書、外文書、或通

一通  
支通

右一通上中以次上

右本ノ

右通可易  
後文三席云清



13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

云内本九月既利平地而入。每井  
伊望吉既役所一月出急用。狀  
逐々因夜子ノ申前後出一返  
八

六  
門用休  
口  
廣  
町  
草  
間  
酒  
方  
後  
夜  
正  
萬  
物

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

徒之以北而南之以南中門先掛而  
止高一而列設木而九以北去之  
卑中列七市不平掛高徒之  
丈六門邊高成中列徒之以北  
右移西門相成以北之高丈相成  
依則右肩前半之徒左一收  
中庭後右肩半高大走徒之以北

中徒之上

口广門御方

九月六日  
後支三市高下  
右四百脚下

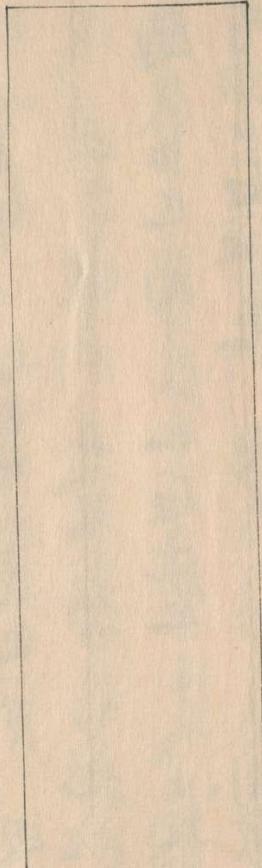
使中列

平掛高

使中列

一去日本九月夜半中之數日平居

天保十二年書一事



東海道  
西門高  
安<sub>アシ</sub>甲<sub>カニ</sub>高

致  
後  
一  
事  
御  
百  
物  
御  
口  
产  
明  
日  
海  
井  
住  
修  
御  
古  
事  
一  
連  
之  
序  
用  
初  
之  
去  
三  
甲  
一  
中  
前  
七  
日  
市  
文  
及  
年  
速  
連  
之  
向  
辺  
取  
成  
一  
中  
刻  
文  
及  
西  
中  
以  
總  
商  
取  
古  
上  
右  
連  
之  
一  
後  
西  
調  
有  
一  
右  
精  
連  
刻  
相  
成  
以  
右  
相  
接

四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
書  
中  
中

江上

庚申酉

午  
未  
未  
未

申  
酉

未  
未

後題  
十年  
丁

後題  
西  
方  
萬  
物  
後

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

国立国会図書館 タイトル『天保撰要類集』 請求記号 815-1

ガラス使用

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

国立国会図書館 タイトル『天保撰要類集』 請求記号 815-1

ガラス使用

815  
1

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58

国立国会図書館 タイトル『天保撰要類集』 請求記号 815-1

ガラス使用

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35  
36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

国立国会図書館 タイトル『天保撰要類集』 請求記号 815-1

ガラス使用